

特集

第1回滋賀県多職種連携学会 研究大会を終えて



～地域で最後まで住み続けるために～
多職種が連携して住みよい地域づくりを！！

平成28年12月4日（日）

第1回滋賀県多職種連携学会研究大会が開催されました!

去る12月4日(日)に栗東芸術文化会館さきらにおいて、第1回多職種連携学会研究大会（旧滋賀県連携リハビリテーション学会）が、「自立支援に向けた多職種連携」というテーマのもとで開催されました。

当日は、寒さが緩み過ごしやすい1日の始まりでしたが、午後からはあいにくの雨となりました。そのような天候の中、参加された約200名が各会場で熱心に講演・発表に耳を傾け、質疑が飛び交うなど、まさしく多職種が互いを知り連携を進める、そんな推進力を感じさせる大会となりました。

午前中、メイン会場となる中ホールでは、**さわやか福祉財団戦略アドバイザーの土屋幸己氏が、「自立支援に向けた多職種連携 ー地域で最後まで住み続けるためにー」と題して講演** をされました。

今後、さらに進む高齢化などを中心にした社会情勢や、市町を中心に取り組まれている介護予防事業等について、制度を含めて詳しく解説していただきました。

講演の中で、『住民さんも貴重な地域の人財である』というお話があり、『ただ、住民さんに対して、行政側から行政が考えた役割を押し付けるのではなく、**地域にある課題を共有し、どうしたら解決に導けるか、一緒に考えてほしいという姿勢で住民さんに投げかける方が住民さんも受け入れられやすいのではないか**』というお話が印象的でした。

多機関・多職種がそれぞれの専門性を発揮し、また、そこに住む住民さんの声を聞き、住みよい地域を作り上げていくことの大切さについて教えていただきました。

「参加者の声」

- 地域づくり、まちづくりという観点での「私たちは何ができるのか」「私たちは何をなすのか」という問いは大変感銘を受けた。私個人として、専門職として…ではなく、一人の地域に住まう人としての連携…つながりを示唆いただいたように思う。
- 地域包括ケアや総合支援事業など、分かりやすく具体的に説明いただき、詳細を理解することができた。

(アンケートより抜粋)



さわやか福祉財団戦略アドバイザー
土屋幸己氏

本学会は、多職種が相互に連携し、総合的なリハビリテーションの推進について研鑽を行い、滋賀県の地域リハビリテーションの向上に寄与することを目的としています。構成団体は、(一社) 滋賀県医師会、(一社) 滋賀県病院協会、(一社) 滋賀県歯科医師会等25の団体です。

また、午後からは**一般演題の発表**や**シンポジウム**が行われました。

演題発表には、多職種連携学会の名にふさわしく、リハビリテーション職、看護師、栄養士、教員、障害者支援事業所、就労支援事業所等、様々な機関・職種の方からの発表がありました。

中でも、「本人を中心に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、ケアマネージャー、ジョブコーチ、支援コーディネーター、職場関係者など、**多職種・多機関がそれぞれの専門性を発揮し、復職への支援を行い、発病から2年の歳月を経て復職に至った方への支援について**」の発表に、参加者からも注目が集まりました。



会場風景



演題発表の様子

「参加者の声」

- 県外からの発表については、あまり聞くことができないので刺激になりとてもよかったと思う。
- わかりやすく、現職場で感じていることなどの解決の糸口になるような内容もあり、興味深く聴くことが出来良かったです。

(アンケートより抜粋)

続いて行われた**シンポジウム**は、「**自立支援に向けた多職種連携 ～地域で最後まで住み続けるために～**」と題して、①滋賀県介護支援専門員連絡協議会、②一般社団法人滋賀県薬剤師会、③公益社団法人滋賀県栄養士会、④NPO法人滋賀県社会就労事業振興センターの**4つの団体から、『多職種連携』をキーワードに、繋がることから広がる支援を、それぞれの取り組みをとおして報告**していただきました。

各団体とも地域において、多職種と連携し熱心に取り組まれている現状が理解されるプログラムとなりました。



シンポジウム風景

本学会は、地域に暮らす人々のライフステージに応じて、一貫性・継続性のあるリハビリテーションを提供していくため、有機的な連携を考え、現場の実践を共有する場であるという、これまでの滋賀県連携リハビリテーション学会の趣旨を引継ぎつつ、その実現のために、さらに多くの人（職種）が関わり、お互いを理解し連携していくことが必要であることから、滋賀県多職種連携学会としてリニューアルされました。

地域包括ケアシステムの構築が県内外を問わず急務として話題に上がっていますが、話題に上がっているからこそ一足飛びの構築は難しい状況です。支援者をはじめ、関わるそれぞれが、試行錯誤し知恵を出し合いながら進めているところです。

それぞれがこれで良いのか迷いながら取り組んでいる中で、その検証の場として、情報を収集する場として、この研究大会が機能していく事が望まれます。

今回の本学会は、県外からも一般演題の発表がされました。県内外を問わず様々な取り組みの情報が滋賀県で蓄積し広められることは、従事する方々への明日へのエネルギーとなり、それは私たちのより豊かな生活に繋がることと考えています。

本学会が、その一翼を担っていけるよう、そして、リハビリテーションの概念がより浸透し、「多職種連携」の取り組みが進むことにより、効果的な地域包括ケアシステムの構築に結び付いていくよう、今後も、関係者とともに、取り組んで参ります。

お知らせ

～『第2回 滋賀県多職種連携学会研究大会』のご案内～

平成29年11月22日(水) 栗東芸術文化会館さきらにて

基調講演・演題発表など企画中!!

※詳細は、当センターホームページに随時アップしていきます。

学会事務局：滋賀県立リハビリテーションセンター



ちょっとひと工夫、おいしく食事しましょう。

「あると便利な介護食レシピ」のご紹介

🍴 お肉のストックロール

🕒 20分

(1本分：エネルギー78kcal
たんぱく質 5.6g 脂質 4.1g 塩分 0g)

材 料 (魚肉ソーセージくらい3本分)
(出来上がり：約50g×3本分)

- | | |
|-----------|-------------|
| ・合挽き肉 | 80g (卵大2個弱) |
| ・長イモすりおろし | 50g (卵大1個) |
| ・玉ねぎ | 60g (中1/4個) |



【作り方】

- ①小さくカットした玉ねぎと、すりおろした長イモ・合挽き肉をミキサーに入れ、なめらかになるまで回す。
- ②ラップを広げて、細長い棒状(フランクフルトくらい)にして包み、水気が入らないようにしっかり両端を輪ゴム等でしばり、茹でてから冷凍する。

【ワンポイントアドバイス】

- ★冷凍庫で、1週間保存できる。
- ★筑前煮 ビーフシチュー 肉じゃが 酢豚 煮込みハンバーグなどに利用できる。
- ★輪切りにすると、つみれの代わりになる。半解凍状態で切ると、切りやすい。
- ★保存するときは、茹でたものを一口大に切ってチャック付きの保存袋に入れておくと便利。(作った日付も書いておくこと。)



[記事提供：公益社団法人 滋賀県栄養士会]

～就労等医学的支援事業のご案内～

作業や就労環境での困りごとはありませんか？ 当センターの職員といっしょに解決策を考えましょう！

当センターでは、障害のある方が従事する職場や活動の場に、職員（理学療法士、作業療法士）が訪問し、対象者を身体・認知機能や作業能力等の面から評価し、それに応じた作業および就労環境の整備や職務内容の提案、二次障害予防に向けた体操指導等を行っています。

■事業内容

①訪問指導

「相談例」◎作業中の姿勢が傾いている。 ◎仕事が覚えられない。 ◎いつも同じミスをする。
◎障害特性にあった対応や仕事は他にあるか？

②出張研修…支援者(施設、企業)などを対象に二次障害予防や障害理解に向けた出前研修会を開催

「講演例」◎介助者・当事者にやさしい介助方法について
◎二次障害について～個別相談結果を踏まえて～
◎障害特性について

■対象者

企業または、障害福祉サービス（就労移行支援、就労継続支援A型・B型、生活介護等）で就労や活動を行っている障害のある方を支援している方



■実施方法

申込み方法：当センターHPに掲載している「事前チェックシート」に相談内容等をご記入いただき、お申し込みください。（詳細はHPに掲載しています。）

実施日：平日（土、日、祝日を除く。）

費用：原則、無料。（ただし、備品改良や研修に必要な消耗品等の実費は、施設・個人負担。）

その他：一施設・企業に対し、原則一回3名まで。

～義肢・装具を安全にお使いいただくために～

義肢・装具管理手帳を作製しました。 新規で作製される方より順次配布しています。

義肢・装具は消耗品です。傷んだり古いまま使い続けていると、痛みや関節の変形などが生じ、日常生活に支障を来す場合がありますが、そのようなことがないように、この度「義肢・装具管理手帳」を作製いたしました。

手帳への記入は補装具取扱い業者さんが行い、適切な時期に再作製や修理ができるように用います。

手帳は、障害者手帳のカバーに入る大きさになっていますので、障害者手帳といっしょに保管しましょう。



【編集後記】

春の訪れが待ち遠しい毎日ですが、皆様いかがお過ごしですか？
今年度は早くからインフルエンザが流行し、学校等の学級閉鎖が相次いでいます。
予防には、人混みを避けること、手洗い・うがい、湿度管理、そして、休養とバランスのとれた栄養の摂取といわれています。
新しい年にあたり、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



(第38号) 平成29年（2017年）1月発行

■編集・発行：滋賀県立リハビリテーションセンター



〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4-30（滋賀県立成人病センター内）

TEL.077-582-8157 / FAX.077-582-5726 e-mail:ef4701@pref.shiga.lg.jp

Web : <http://www.pref.shiga.lg.jp/e/rehabili/>

各事業の詳細は、当センターのホームページをご覧ください。
最新情報を随時更新しています。



グリーン購入法
適合用紙使用

